

第2創業のモデル工場に

武蔵野が6月に竣工した米飯を中心とするセブンイレブン専用工場が本格稼働した。既存の埼玉工場、朝霞工場を統合したもので、敷地面積7362坪、延べ床面積6815坪と、セブンイレブンの中食工場としては最大規模。最大生産能力を持つ。生産アイテムはおにぎり、弁当、チルド弁当、チルド寿司、調理パンで米飯類を中心に生産する。



▽所在地=埼玉県朝霞市泉水3丁目11番46号▽敷地面積=2万4338㎡(7362坪)▽建築延床面積=全体2万2531㎡(1階8861㎡、2階6640㎡、3階4508㎡、4階1851㎡)その他構築物671㎡)▽生産能力=最大弁当8ライン/寿司2ライン/おにぎり17ライン/チルドパン7ライン/炊飯84釜×4ライン▽生産品目=米飯(弁当・おにぎり)、チルド(弁当・惣菜・寿司)調理パン)
 マインコンセプト=①埼玉工場と朝霞工場を統合し、武蔵野最大規模の製造エリアを確保することで、米飯だけでなくチルド工場として多様な新規商品の製造が可能 ②最新機器の積極的導入=生産能力の高い炭素コーティング深釜炊飯器の導入。調理パンの品質向上のため丸刃スライサー+サンドイッチハーフカット機ラインの導入。野菜洗浄には次亜塩素酸の低減、品質を向上するため微酸性電解水の導入
 △作業効率向上=①調理、冷却、加工の実績、進捗をリアルタイムに管理するための工程管理システムを導入 ②HACCPに対応して、非汚染・汚染区を分け、人と物の作業効率を考えたレイアウトを実現
 マフッドディフェンス=工場のセキュリティを強化。認証カードを用いた入場制限および履歴の管理、アクセス制限エリアの設定。360℃監視カメラを採用し、死角なく状況を把握
 △エネルギー関連設備=①ガスコージェネレーションシステム(700Kw×2台)を導入し、停電時の一部工場稼働に対応 ②環境保全の取組みとして太陽光発電設備(100kw)を導入

工場概要



13年から17年度まで、同時に、従業員の働ける中長期計画で、きやすい環境の整備などは、自ら学び、自ら考へて実現するための取り組み。武蔵野は、改革に取り組んでいる。ローガンに掲げ、意識改革を取り組んでいる。その中で、既存工場の約3.5倍の規模を持つセブン工場は、安全と位置づけられている。次の中長期計画は創



セブンイレブンジャパン 取締役常務執行役員商品本部長 鎌田靖氏

私どもの専用工場ではこの武蔵野新埼玉工場が全国163番目の稼働工場となる。全工場の中でも最大規模の工場を最新の設備を投入して作っていただいた。これだけの規模のマネジメントができるのは武蔵野の力だと思ふ。セブンイレブン・ジャパンは、昨年約1200店舗を全国に出店し、現時点(6月18日現在)で1万6500店舗の規模に達している。今年度も1200店舗を出店を予定している。今後3~4年は1000店舗規模の拡大を計画しており、首都圏には約500店舗規模で増やす計画である。いろいろな方から、CVSは飽和しているのではないかと指摘されるが、私どもはこうした差別化された工場から差別化された商品をわれわれの加盟店に提供したいければ、まだまだお客さまの近く

差別化された工場から差別化された商品提供

に店を作ることは可能と考えている。2010年以降、武蔵野には福岡、京都、埼玉のカムス、東海、そしてこの新埼玉工場と5工場を新設いただいた。当社と武蔵野の関係は、セブンイレブンが74年に1号店を出店し、78年におにぎりの発売を開始して33年となる。今でも、おにぎりや売れ筋トップのツナマヨネーズは武蔵野の提案商品である。そして13年度はグループ会社の武蔵野フーズが生産する「食の食パン」を提供した。PB商品として、グループで約4000万食の販売に注力している。いずれも世の中の概念を変える商品であり、開発力、マーケティング力、技術力と武蔵野の力を感ぜさせられた商品である。そして、私が商品本部の責任者として感じるのは、革新力である。他の追随を許さない革新力を武蔵野は秘めている。セブンイレブン・ジャパンは、既に2万店の計画は立っており、3万店構想もある。その実現は、差別化された商品がわれわれが手にしなければ無理であり、その差別化された商品を武蔵野の工場からいただけることを、期待している。



新埼玉工場の建設は、旗艦工場として立ち上るセブン工場と販売増に急ぎたい。商品の安定供給を図るため、本地域の埼玉工場におにぎり専用工場を朝霞工場の2大規模となり、また米

乾坤一擲の大事業、革命的黎明工場へ

代表取締役会長 安田 定明氏

飯を扱う工場としても満たない、工場とはとを夢見しているところ。国内最大の工場とな、名ばかりの小さな作業場である。

今日の新埼玉工場は、この最新鋭設備を順次立ち上げ、地域は元より全国津々浦々のお客さまに満足いただける商品を提供したい。関係の皆さまの変わらぬご指導とご機嫌直しをお願いいたします。

新埼玉工場は、多くのメーカーの業界最新鋭の技術を駆使して頂きたい商品、必要に応じて、深く御礼申し上げます。

代表取締役社長 安田 信行氏

農林水産省 食料産業局食品小売サービス課外食産業室長 山口靖氏

武蔵野の工場は、安全と位置づけられている。次の中長期計画は創



日本の食の安全な提供を共に

地域の発展に手を携えて

朝霞市長 富岡勝氏

この敷地は、以前は富士フィルムの研究所であった。数年前に移転の話があり、朝霞市から大きな工場がどんな用で創出に貢献していただけるか、この跡地をどうなるのかと心配していただいていた。新工場を建設したいと大変がんばっていただきました。また、今後においても、住民と共生できる事業展開をされることを期待しています。

武蔵野は87年に、朝霞駅前朝霞ビルを開いたので、これに、本社機能を移転。朝霞で地域の手を携えて、旧埼玉工場、朝霞で地域の発展と町づくりに取り組んでいく。朝霞市の経済発展と雇

機は根拠は低くなり、ハードウェアの両輪で武蔵野の新たな挑戦の実践が始まりました。幸いにも、新工場は既存2工場と近い場所から位置しているところから、従業員は旧2工場から約1200人がそのまま移行して新設登録は約1200名あるのが、この工場の特徴です。品質に加えてフードディフェンス(食料防衛)に注力して、安全と安心にお届けしたい。ハード面でも、御意図の異物混入の防止、対応業務に注力して、従業員のIDカードや監視カメラなどの現在考え得る措置約2.6倍になる。我が社でも初の挑戦である。これを従業員一人ひとりの意識改革や意識改革を目的に小集まりを通じて新たな工場モデルを構築していく。

安田定明会長には、承認されている。その中でも、CVS界のあり方など、指界いただいたおり、食産業最大規模の工場として成長し、先ができたということ。おにぎりなど日本の日常食を提供する役割を果たしていくのと思われ。皆さまと共に、日本の食の安全な提供をわれわれも追求、ますます発展が見えていくと思う。

新埼玉工場が武蔵野の最新の工場であること、前期中、前期実績あること、営業利益3400億円に達し、3年連続の増収増益を記録している。世界のグローバル売上高は9兆6000億円に及ぶ。関係の皆さまの変わらぬご指導とご機嫌直しをお願いいたします。

新埼玉工場は、多くのメーカーの業界最新鋭の技術を駆使して頂きたい商品、必要に応じて、深く御礼申し上げます。

